

## 白老町都市計画審議会（第2回）会議要旨

日 時：令和4年6月20日（月）10：00～10：45

場 所：白老町役場 第1委員会室

出席者：松田会長、清水副会長、吉谷委員、広地委員、熊谷委員、西村委員、井澤委員  
鈴木委員、福田委員 計9名

事務局：富川課長、温井主幹、熊谷主幹、坂本主任 計4名

会議要旨：

### 1 議事

#### (1) 第2次白老町都市計画マスタープランの決定について

○ 事務局から説明

○ 質疑・意見

##### 【熊谷委員】

- ・人口減少社会を見据えた持続可能なまちづくりやコンパクトシティなどの考え方は理解できるが、町としてこの細長いまちをどのようにコンパクトにしていくのか？  
⇒ 拠点毎にまとまり、公共交通でつなぐ、コンパクト・プラス・ネットワーク型の都市構造を基本的な考え方として、本プランの中で示しています。また、具体的な施策については、個別計画の中で示していくべきものと捉えています。

○ 審議結果

- ・原案のとおり決定

#### (2) 白老町立地適正化計画の概要について

○ 事務局から説明

○ 質疑・意見

##### 【熊谷委員】

- ・人口減少問題は事業者にとっても難題である。人口密度が低下すると事業利益も減り、それが町税の減収にもつながる。本計画だけではなく、他のまちづくりプランとも連携を図りながら、人口減少を抑制するための方策を真剣に考えてほしい。  
⇒ 人口減少対策については、より有効な施策・対策となるよう検討していきます。

##### 【西村委員】

- ・今後の策定プロセスについて教えていただきたい。  
⇒ これまで策定委員会の中で、本計画案について審議してきており、今月末をもって原案が出来上がります。今後は町議会への説明や町民説明会の開催、パブコメの実施等を経た後、本審議会にお諮りしたいと考えております。

##### 【井澤委員】

- ・農業従事者は営農上、居住誘導区域への移転が困難である。居住誘導区域外におけるライフライン等の整備について町の考え方を伺いたい。  
⇒ 農家は都市計画法上、市街化調整区域に居住することが認められているため、本計画の策定により移転が強制されることはありません。また、インフラについても、生活実態と必要性等に応じて維持管理されていくものと考えます。

【熊谷委員】

- ・地域おこし協力隊の採用は観光分野ばかりだが、漁業者や農業者など、担い手を意識した採用を推進すべきである。また、卒業者の町への定着状況について教えて欲しい。

⇒ 第1次産業の地域おこし協力隊の募集については、つがる市でメロン農家を募集した事例があります。また、協力隊卒業後2／3の隊員が町内に定着しています。

【西村委員】

- ・毎年50人前後の新生児が産まれているが、一方で300人程度の自然減・社会減があることに驚いている。子育て環境の更なる充実を図り、白老町は子育てがしやすいまちという、評判を上げていくことも大切である。

⇒ 移住協議会でも、子育てと教育の重要性が意見として出されました。移住者を増やすことも重要ですが、本町では年少人口が極めて少ないことが課題であり、今後有効な施策等の検討が必要だと捉えています。

【福田委員】

- ・防災無線が聞き取りづらいが、機器の更新の考えはあるのか。また、備蓄品の充足度はどうなっているか。

⇒ 更新時期は不明であります。聞こえづらいとの声は伺っております。備蓄品については、一定程度、確保することになると思いますが、全必要数を町で用意するのではなく、各家庭等と合わせて充足させる考えだと認識しています。

防災指針もハードだけではなく、防災訓練等を通して、各個人への意識啓もう等にも拠る部分が大きいものと捉えております。

【井澤委員】

- ・人口減少が進むと、エゾシカやクマ等の被害が大きくなると想定している。エゾシカ、クマ等への対策拡充の考えはあるのか。

⇒ 拡充については言及できませんが、現状としては、猟友会等と連携して年間1,500頭ほど駆除しています。クマについては、動物愛護の観点から、人家等への被害がないと駆除できない側面もあります。

【福田委員】

- ・災害による被害を低減させるためにも、都市機能を分散させることも必要ではないか。

⇒ 北海道が公表した新たな津波浸水エリアでは、町内のほぼ全域が浸水するため、それを避けてまちづくりを進めることは困難であります。災害リスクを把握し、上手に付き合っていくことも大切ではないかと考えます。

【事務局より】

- ・6月中に松田会長から町長に対して本プランの答申を行っていただく予定です。
- ・次回開催は9月を予定しており、議題は立地適正化計画の諮問となります。